

2023/12/6	終値	前日比	騰落率
Dow30	36,054.43	-70.13	-0.2%
S&P500	4,549.34	-17.84	-0.4%
NASDAQ	14,146.71	-83.20	-0.6%
T-Bond 30Y	4.22%	-8bp	
T-Note 10Y	4.12%	-5bp	
T-Note 5Y	4.12%	-2bp	
T-Note 2Y	4.60%	+2bp	
WTI 原油 1月	69.38	-2.94	-4.1%
COMEX 金 2月	2,047.9	+11.6	+0.6%

*米国債の利回りは東部時間午後4時前後の値です。

	NYSE	NASDAQ
値上り銘柄数	2,008	2,070
値下り銘柄数	1,979	2,246
出来高(万株)	98,969	518,315

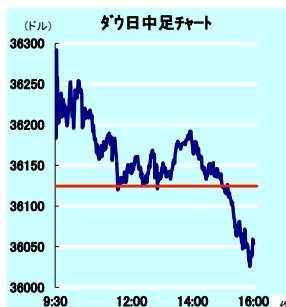
過去1年(終値)	Dow30	NASDAQ
高値	36,245.50 (23/12/1)	14,358.02 (23/7/19)
安値	31,819.14 (23/3/13)	10,213.29 (22/12/28)

シカゴ日経先物	清算値		大証比
	円建て	33,160	
	ドル建て	33,170	-280

*数値は最終確定値ではなく、変更となる場合があります。

<株式相場>

主要3指数は揃って下落。寄り前に発表されたADP雇用統計(11月)が市場予想を下回り、長期金利が低下するなか、米国株は上昇して取引を開始した。非農業部門労働生産性(3Q、確定値)が市場予想を上回り、経済のソフトランディング(軟着陸)期待が高まったことも株式市場の支えに。朝方から、公益や一般消費財セクターが堅調だった。もっとも、その後の米国株は伸び悩み、上げ幅を縮める展開に。原油安を受けてエネルギーセクターが安い。また、CEOが「物価が下がったとしても、来年は消費者の回復力が弱まるかもしれない」とコメントしたウォルマート(-1.1%)や、通期の売上高見通しを引き下げたブラウン・フォーマン(-10.4%)など生活必需品セクターも軟調。終盤はテクノロジーセクター中心に売りに押され、最終的に主要3指数は揃って下落して取引を終えた。個別では、トレーディング収入の低迷を指摘したものの、通期収入見通しを据え置いたシティグループ(+2.5%)が上昇した。



<債券相場>

米10年国債は上昇、利回りは低下。欧州時間の米国債はやや軟調だったが、朝方発表されたADP雇用統計(11月)が市場予想を下回ったことを受け、買いが入った。午後に入ると米10年債は伸び悩み展開となったが、4時頃の米10年債利回りは前日比-5bpの4.12%近辺で推移している。

■MBA住宅ローン申請指数、前週比で上昇

6日に全米抵当貸付銀行協会(MBA)が発表した12月1日終了週の住宅ローン申請指数は前週比+2.8%だった。

■ADP雇用統計11月、雇用者数が市場予想を下回る

6日に民間会社で給与計算代行などのサービスを提供するオートマテック・データ・プロセッシング(ADP)が発表した11月の民間部門の雇用者数は前月比+10.3万人となり、市場予想(同+13.0万人)を下回った。

	今回	予想	前回
	(前月比、万人)		
民間部門雇用者数	+10.3	+13.0	+10.6
内訳 財生産部門	-1.4	-	-0.5
サービス部門	+11.7	-	+11.1

■非農業部門労働生産性3Q確定値、市場予想を上回る

6日に労働省が発表した第3四半期(7-9月期)の非農業部門労働生産性(確定値)は前期比年率+5.2%となり、市場予想(同+4.9%)を上回った。

	今回	予想	速報値
	(%、季節調整済み)		
非農業部門労働生産性	+5.2	+4.9	+4.7
生産高	+6.1	-	+5.9
単位労働コスト	-1.2	-0.9	-0.8

■貿易収支10月、赤字幅は市場予想を上回る

6日に商務省が発表した10月の貿易収支統計によると、財とサービスを合わせた貿易収支は643億ドルの赤字となり、赤字幅は市場予想(642億ドルの赤字)を上回った。

	今回	予想	前回
	(億ドル、季節調整済み)		
貿易収支	-642.55	-642	-611.51
内訳 財	-897.95	-	-863.19
サービス	+255.40	-	+251.69

<欧州概況>

2023/12/6	終値	前日比	騰落率
DJ STOXX 600	470.06	+2.44	+0.5%
FTSE 100(英)	7,515.38	+25.54	+0.3%
DAX 30(独)	16,656.44	+123.33	+0.7%
CAC 40(仏)	7,435.99	+49.00	+0.7%
英10年国債	3.94%	-9bp	
独10年国債	2.20%	-5bp	

*各国債の利回りは米国東部時間午後1時前後の値です。

手数料およびリスクについての重要な注意事項

<有価証券や金銭のお預かりについて>

株式、優先出資証券等を当社の口座へお預かりする場合は、口座管理料をいただきません。外国証券（円建て債券および国内の金融商品取引所に上場されている海外ETFを除きます。）をお預かりする場合には、1年間に3,300円（税込み）の口座管理料をいただきます。ただし、電子交付サービスを契約している場合には、口座管理料は1年間に2,640円（税込み）とします。なお、当社が定める条件を満たした場合は外国証券の口座管理料を無料といたします。上記以外の有価証券や金銭のお預かりについては料金をいただきません。なお、証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じて、1銘柄あたり6,600円（税込み）を上限として口座振替手数料をいただきます。

お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<株式>

株式（株式・ETF・J-REITなど）の売買取引には、約定代金（単価×数量）に対し、最大1.265%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は最大2,750円（税込み））の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.265%（税込み）の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

外国株式の海外委託取引には、約定代金に対し、最大1.375%（税込み）の売買手数料をいただきます。外国株式の国内店頭（仕切り）取引では、お客様の購入および売却の単価を当社が提示します。この場合、約定代金に対し、別途の手数料および諸費用はかかりません。

※外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生します（外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その合計金額等をあらかじめ記載することはできません）。外国株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

- 株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- 株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- また、外国株式については、為替相場の変動によって、売却後に円換算した場合の額が下落することによって損失が生じるおそれがあります。
- REITは、運用する不動産の価格や収益力の変動、発行者である投資法人の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により価格や分配金が変動し、損失が生じるおそれがあります。

<債券>

債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

- 債券は、金利水準、株式相場、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による債券価格の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- 債券は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、債券価格が変動することによって損失が発生するおそれがあり、また、元本や利子の支払いの停滞もしくは支払い不能の発生または特約による元本の削減等のおそれがあります。
- 金融機関が発行する債券は、信用状況の悪化により本拠所在地国の破綻処理制度が適用され、債権順位に従って元本や利子の削減や株式への転換等が行われる可能性があります。ただし、適用される制度は発行体の本拠所在地国により異なり、また今後変更される可能性があります。

<個人向け国債>

個人向け国債を募集により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。個人向け国債を中途換金する際は、次の計算によって算出される中途換金調整額が、売却される額面金額に経過利子を加えた金額より差し引かれます（直前2回分の各利子（税引前）相当額×0.79685）。

- 個人向け国債は、安全性の高い金融商品ですが、発行体である日本国政府の信用状況の悪化等により、元本や利子の支払いが滞ったり、支払い不能が生じるおそれがあります。

<転換社債型新株予約権付社債（転換社債）>

国内市場上場転換社債の売買取引には、約定代金に対し、最大1.10%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円（税込み））の売買手数料をいただきます。転換社債を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。転換社債は転換もしくは新株予約権の行使対象株式の価格下落や金利変動等による転換社債価格の下落により損失が生じるおそれがあります。ま

た、外貨建て転換社債は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

<投資信託>

投資信託のお申込みにあたっては、銘柄ごとに設定された費用をご負担いただきます。

- ・お申込時に直接ご負担いただく費用：お申込手数料（お申込金額に対して最大 3.85%（税込み））
- ・保有期間中に間接的にご負担いただく費用：信託報酬（信託財産の純資産総額に対して最大年率 2.254%（税込み））
- ・換金時に直接ご負担いただく費用：信託財産留保金（換金時に適用される基準価額に対して最大 0.5%）
- ・その他の費用：監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等が必要となり、商品ごとに費用は異なります。お客様にご負担いただく費用の総額は、投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、記載することができません（外国投資信託の場合も同様です）。
- ・投資信託は、国内外の株式や債券等の金融商品に投資する商品ですので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が下落することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資信託は、組入れた有価証券の発行者(或いは、受益証券に対する保証が付いている場合はその保証会社)の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が変動することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・上記記載の手数料等の費用の最大値は、今後変更される場合があります。

<レバレッジ型上場投資信託、指数連動証券および投資信託、並びに、インバース型上場投資信託、指数連動証券および投資信託>

「レバレッジ型」および「インバース型」について

「レバレッジ型」および「インバース型」が連動を目指す指標（以下、「対象指標」という）は、計算の元となる株式指数、債券指数、REIT 指数や商品先物指数、先物の清算値、等（以下、「原指数」という）の日々の上昇率、下落率に一定の倍率を乗じて算出されます。「レバレッジ型」とは倍率がプラス何倍、「インバース型」とは倍率がマイナス何倍といったものをいいます。

主な投資リスクについて

原指数が 1 日で大幅に変動した場合、倍数（プラス 2 倍、マイナス 1 倍、マイナス 2 倍、等）に応じて ETF および ETN の対象指標も大きく変動し、ひいては基準価額等も大きく変動することになります。例えば、次のケースでは、対象指標の値がゼロ以下になることにより、ETF および ETN の基準価額等はゼロとなりますので、投資金額の全額を失うこととなります。

- ・レバレッジ型（プラス 2 倍）またはインバース型（マイナス 2 倍）の ETF、ETN において、原指数が前日から 50%以上下落、あるいは、上昇した場合（つまり、前日比半分以下に、あるいは、1.5 倍以上となった場合）
- ・インバース型（マイナス 1 倍）の ETF、ETN において、原指数が前日から 100%以上上昇した場合（つまり、前日比 2 倍以上となった場合）

他の重要な留意点について

対象指標の上昇率および下落率は、2 営業日以上の間でみた場合、その期間の原指数の上昇率および下落率に倍数（プラス 2 倍、マイナス 1 倍、マイナス 2 倍、等）を乗じた値とは通常一致しません。原指数の価格変動性（ボラティリティ）が大きくなればなるほど、また、投資期間が長くなれば長くなるほど、その差は大きくなる傾向があります。よって、それが長期にわたり継続されることにより、期待した投資成果が得られないおそれが生じます。それゆえに、本商品は、一般的には、長期間の投資に向いたものとはいえ、比較的短期間の市況の値動きを捉えるための投資に向いている金融商品といえます。

<信用取引>

信用取引には、約定代金に対し、最大 1.265%（税込み）（手数料金額が 2,750 円を下回った場合は最大 2,750 円（税込み））の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託証拠金は、売買代金の 30%以上で、かつ 300 万円以上の額が必要です。信用取引では、委託証拠金の約 3.3 倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

<年金・保険>

保険商品には、契約時・運用期間中・年金受取期間中などに費用をご負担いただく場合があります。また、ご契約日から一定期間内の解約または一部解約の場合には、解約控除が発生する場合があります。

- ・定額終身保険等の積立金は一般勘定で管理されますが、ご契約後一定期間内に解約された場合の解約返戻金は一時払保険料を下回り、損失が生じるおそれがあります。また、商品によっては、解約返戻金の計算に際して、市場金利の変動に応じた市場価格調整が行われるため、損失が生じるおそれがあり

ます。

- 変額年金保険等は特別勘定資産で運用されるため、市場リスク（価格変動、金利変動、為替等によるリスク）、および信用リスク等の投資リスクがあり、積立金や解約返戻金等は一時払い保険料の額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
- 災害保障重視型定期保険、逓増定期保険、定期保険、養老保険等の平準払商品の解約返戻金は、払込保険料累計額を下回り、損失が生じるおそれがあります。
- 外貨建商品の場合には、為替レートの変動により、損失が生じるおそれがあります。
- 生命保険会社の業務または財務の状況の変化により、基本保険金額、年金額、死亡給付金額等が削減される場合があります。

保険商品のご検討・お申込みに際しては、「商品パンフレット」「契約締結前交付書面（契約概要/注意喚起情報）」「ご契約のしおり-約款」などをご覧ください、詳しい内容については、販売資格を有した弊社の担当者（生命保険募集人）までお問合せください。

○2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。金融商品取引のご契約にあたっては、あらかじめ当該契約の「契約締結前交付書面」（もしくは目論見書及びその補完書面）または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

○この資料は、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、資料中の記載内容、数値、図表等は、本資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合があります、岡三証券がその責を負うものではありません。なお、本資料に記載されたいかなる内容も将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。

○岡三証券およびその関係会社、役職員が、この資料に記載されている証券もしくは金融商品について自己売買または委託売買取引を行う場合があります。

○自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

一般社団法人日本暗号資産取引業協会

（2023年1月改訂）